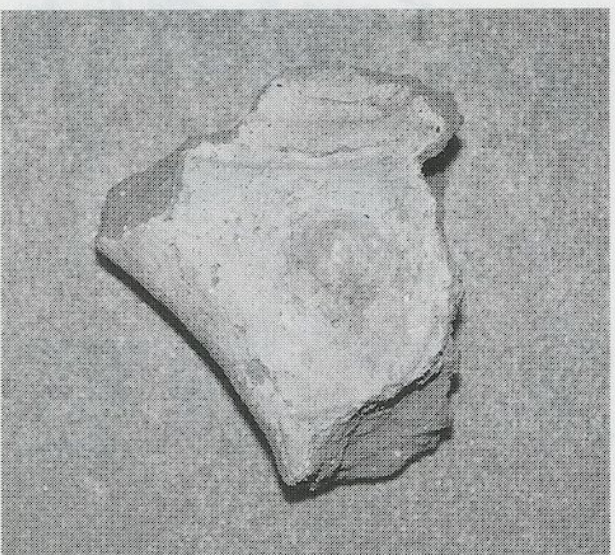


土の中からのメッセージ(4)

昭和四十七年、下米田町の県道可児・金山線工事に伴って川合大橋北側が発掘調査されました。数カ月にはわたる調査の結果、膨大な数の土器や石器が見つかり、縄文時代以降の県内有数の重要遺跡（牧野小山遺跡）であることが分かりました。

発見された遺物の中から四個の土偶（土で焼かれた人形）の一部（写真左）が見つかりました。これらはいずれも縄文時代の中期の土器と一緒に発掘されており、今から約四千五百年ほど前のものと推定されます。

土偶の多くに女性の乳房をかたどったと思われる突起を見ることができます。それらから、



土偶は人間の誕生や繁栄に関わる祈りに使用したものでないかと考えられています。

また、すべてが破片か、部分が欠けた形で発見されており、患部を打ち欠き病気の回復を願ったのではないかともいわれています。

縄文人の祈りの世界をこの土偶に垣間見ることができます。

今回は、次の方々から貴重な資料をいただきました。ありがとうございました。

（平成四年六月分）

○縄ない機、手斧など 八点

（日比野雪男さん／中富町）

○四国西国巡礼札、牛留め金具、

付け木など 三十一点

（大沢亨さん／太田町）

○台ハカリ 一点

（渡辺元一さん／川合町）

○文字入り徳利 二点

（兼松玉枝さん／本郷町）

○玉石取り用具、ワラジづくり

など 九点

（渡辺稔さん／川合町）

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めています。資料は見せていただくだけでも結構ですので、社会教育課（内線三六二）まで情報をお寄せください。